

全国縦断

地理空間情報活用促進セミナー

仙台会場

事例から学ぶ、GIS の活用方法

開催概要

2014年1月23日 木

仙台サンプラザ 3階クリスタルルーム

宮城県仙台市宮城野区榴岡 5-11-1

GIS(地理空間情報システム)は、現実空間の位置とコンピュータ上のあらゆる情報を結びつけることができる情報システムです。GISは蓄積した情報を重ねあわせて全体を見渡し、あらゆる事象の抱える問題点や課題を明確にするといった「情報の見える化」が得意です。よりスマートな意思決定や情報管理のツールとして活用できるGISは住民サービス、施設管理、まちづくり、防災などの行政活用や、スマホなどのモバイル端末での位置情報利用、地図サービスなど多方面で活用されています。今やGISは国民すべてが安心・快適な生活をおくる上でなくてはならないものとなっています。

本セミナーを主催する、わたしたちGIS技術研究会はその名が示す通り、GIS技術について研究をしている団体です。今回わたしたちは被災地を訪ねて震災後の復旧復興におけるGISの活用状況を調査しました。東日本大震災において活用されたGISの事例を通して、今後またいつどこで起こるかわからない災害への危機管理対応に向けた皆様の一助となること、そして、GISというものをより皆様に知っていただき、活用していただくことが本セミナーの目的です。

プログラム

- | | | |
|-------|----------|--|
| 12:45 | 開場・受付開始 | |
| 13:15 | 開会・主催者挨拶 | 東北GIS技術研究会 会長 佐野 伸義 |
| 13:20 | 来賓挨拶 | 国土交通省国土地理院 東北地方測量部 部長 梶川 昌三 様 |
| 13:25 | 政策講演 | 災害・防災における地理空間情報の役割
国土交通省国土地理院 東北地方測量部 部長 梶川 昌三 様 |
| 13:55 | 基調講演 | 東日本大震災においてGISが果たした役割
NPO法人全国GIS技術研究会 理事長 碓井 照子 |
| 14:50 | 事例発表 | 東松島市における災害対応の課題
東松島市復興政策部復興都市計画課 技術副参事兼都市整備班長 五野井 盛夫 様

仙台市下水道GISの活用事例
仙台市建設局 下水道事業部 下水道調整課 保全計画係 技師 小松 孝輝 様

道路災害査定に係る新技術(MMS)の利活用
宮城県東部土木事務所 技術主幹(まちづくり担当) 小野寺 正樹 様

有事に備えるGIS
大阪府GIS官民連絡協議会GIS支援グループ 一氏 昭吉 様

東北GIS技術研究会の災害対応事例
東北GIS技術研究会 |
| 16:50 | 情報提供 | 地域セミナーのご紹介 |
| 17:00 | 閉会 | |

主催：NPO法人全国GIS技術研究会 北海道GIS技術研究会、東北GIS技術研究会、関東甲信越東海GIS技術研究会、近畿中部北陸GIS技術研究会、中四国GIS技術研究会、九州GIS技術研究会

共催：協同組合 宮城県地理情報センター、一般社団法人地理情報システム学会、一般財団法人日本地図センター

後援：総務省、国土交通省国土地理院、宮城県、宮城県市長会、宮城県町村会、仙台市、東松島市

主催組織(NPO法人 全国GIS技術研究会)について

NPO法人全国GIS技術研究会は、GIS及び地理空間情報とその周辺技術に精通している全国の企業120社で構成されており、GISの普及促進、関連技術の調査・研究を目的として活動しています。当研究会は地域貢献の一環として、地理空間情報の整備及び活用推進のための勉強会を全国各地で開催しています。わたしたちはこれらの活動を通してGISの普及促進に取り組んでいます。



セミナー レポート

全国
縦断

地理空間情報活用促進セミナー

1月23日、NPO 法人 全国 GIS 技術研究会は仙台サンプラザで「全国縦断 地理空間情報活用促進セミナー」を開催した。「事例から学ぶ、GIS の活用方法」をテーマとし、東日本大震

災後の復旧復興において活用された GIS の活用事例を通して GIS の理解を深め、今後の危機管理対応などに向けてより利活用されていくことを目的として開催されたセミナーをレポートする。

セミナープログラム

- ・政策講演
- ・基調講演
- ・事例紹介
- ・地域セミナーの紹介

政策講演

災害・防災における 地理空間情報の役割

——国土地理院



梶川昌三氏：国土地理院の梶川昌三氏は、まず平成 24 年 3 月 27 日に新たに策定された地理空間情報活用促進計画について解説した。従前の計画は平成 20 年に策定され、これ

までの成果(平成 20 年策定の計画)と社会情勢の変化による課題を踏まえた内容となっている。次に、国土地理院の5つの役割として、国土地理院が東日本大震災(以降、震災後)の復旧復興にどのように関わってきたかを紹介した。梶川氏は、来るべき災害に備えて実施しておくべきこととして、「過去の災害の実態を明らかにすること」と「次の災害に備えること」をあげ、これらに関わる地理空間情報を整備しておくことで、発災時の対応に GIS が活躍すると語った。

基調講演

東日本大震災において GIS が果たした役割

——NPO 法人全国 GIS 技術研究会



碓井照子：主催団体である NPO 法人全国 GIS 技術研究会の碓井照子理事長は、1.東日本大震災直後における GIS 利活用からみえる社会の変化、2.東日本大震災における地方自治体の GIS 利活用からの変化、3.ま

とめ、基盤地図情報の定着と更新について語った。まず、震災直後の社会的な GIS の活用例を紹介した。その内容は復興支援、アーカイブと多岐にわたるという。次に震災後の地方自治体における GIS の利用状況について発表した。震災後、2011 年、2012 年、2013 年と3度にわたり沿岸部の被災自治体を訪ね、震災後の復旧復興における GIS の活用状況について自身が調査してきた内容を紹介した。最後に近年の GIS トレンドに関する情報提供として GIS と BIM(建設情報モデル)の融合について語り、基盤地図情報のスパイラルアップの考え方は建設情報と GIS の融合であるとまとめた。

事例発表

東松島市における 災害対応の課題

——東松島市



五野井盛夫氏：長年にわたり GIS を使いこなしてきた GIS アナリストである五野井氏は、震災後の復旧復興活動においてもその豊富な経験を活かし、現場で GIS をフルに活用してきた。まず、東松島市の被災状況を自らが GIS で作成した数多くのデータで解説した。次に東松島市で整備していた GIS データと震災後に国土地理院から提供された GIS データをどのように復旧復興へ向けて活用しているのか事例紹介した。最後に五野井氏は東松島市(もしくは自身)の課題として、1.日常業務と震災時に利用する GIS の相違、2.緊急時だけでは利用できない、と2点についてあげた。

仙台市下水道 GIS の活用事例

——仙台市



小松孝輝氏:仙台市では、下水道事業アセットマネジメントを実現している。これを GIS 活用の先進事例として小松氏が紹介した。まず、アセットマネジメントの必要性を唱え、仙台市では GIS をどのように活用してアセットマネジメントを実現しているか解説した。GIS の空間解析機能を使ったリスクマネジメント、GIS を用いた計画策定、維持管理情報の蓄積、災害対応と GIS として、防災訓練の実施状況(現地調査、データ入力、GIS への取り込み)について紹介した。まとめとして、アセットマネジメントに GIS は不可欠、アセットマネジメントと GIS に終わりはないと語った。

道路災害査定に係る新技術(MMS)の利活用

——宮城県



小野寺正樹氏:震災後、宮城県東部土木事務所では災害査定対応として MMS(Mobile Mapping System)を採用し、査定に臨んだ。小野寺氏はその経緯と効果について語った。まず始めに東部土木事務所管内の被災状況について解説し、続いて災害査定制度について、成り立ちから詳細に解説した。最後に、災害査定に臨んだ MMS の概要を紹介した。災害査定をこなす中で東部土木事務所の MMS は 2 度の大きな機能追加を行い、最終的にはバージョン 3 となった。MMS を活用することにより、様々な制約がある中でも効率的に災害査定を行うことができたと語る小野寺氏は一方、課題として細かいクラックの状況を確認する際、拡大画像が粗いなど、車載カメラの解像度といったハード面の制約についても取りあげた。

有事に備える GIS

——大阪府 GIS 官民連絡協議会



一氏昭吉氏:GIS の先進自治体である大阪府門真市における基盤地図情報の運用について自らが手がけた事例を取り上げ、基盤地図情報へのスパイラルアップが如何に重要かを解説した。まず一氏は、なぜ基盤地図情報を活用すべきなのかと解説した。続いて国・自治体の連携で効率的に整備更新する具体的な事例を紹介した後、基盤地図情報を軸にデータの相互活用事例を紹介した。最後に一氏は、1.基盤地図情報は地理空間情報作成のために集約された位置の基準、2.災害復興計画基本図と基盤地図情報の活用を、3.更新は国と自治体の連携で効率的に、4.復興に役立て・災害に備える GIS を、と締めくくった。

東北 GIS 技術研究会の災害対応事例

——東北 GIS 技術研究会



阿部輝男:東北 GIS 技術研究会会員企業による災害対応事例について東北 GIS 技術研究会を代表して阿部が紹介した。震災直後の被災面積の算出事例、道路台帳の復元事例、道路路面災害への MMS 活用事例、航空レーザープロファイラの活用事例、下水道災害復旧調査における GIS の活用事例、以上 5 つの事例について、当時の状況、採用の経緯、その効果について紹介した。

今後も NPO 法人全国 GIS 技術研究会はセミナー実施などの活動を通して GIS の普及促進のための継続的な活動を展開していくとして本セミナーは幕を閉じた。

以上、多くの事例発表はセミナー参加者にとっても有益なものであったのではないだろうか。

セミナータイトル: 全国縦断 地理空間情報活用促進セミナー
～事例から学ぶ、GIS の活用方法～
主催: NPO 法人 全国 GIS 技術研究会
日時: 2014 年 1 月 23 日(木)
会場: 仙台サンプラザ
参加人数: 180 人(自治体:53、民間・一般:127)

レポート編集・問い合わせ先/東北 GIS 技術研究会

Geographic Information System/Service
NPO 法人 全国 GIS 技術研究会



<http://www.npo-zgis.or.jp>

セミナー 写真 1

全国縦断 地理空間情報活用促進セミナー



開会・主催者挨拶 東北 GIS 技術研究会 佐野伸義会長



政策講演 国土地理院東北地方測量部 梶川昌三 氏



基調講演 NPO 法人全国 GIS 技術研究会 碓井照子理事長



事例発表 東松島市復興都市計画課 五野井盛夫 氏



事例発表 仙台市下水道調整課 小松孝輝 氏



事例発表 宮城県東部土木事務所 小野寺正樹 氏

セミナー 写真 2

全国
縦断

地理空間情報活用促進セミナー



事例発表 大阪府 GIS 官民連絡協議会 一氏昭吉 氏



事例発表 東北 GIS 技術研究会 阿部輝男



会場の様子 後方より



会場の様子 前方より

セミナータイトル: 全国縦断 地理空間情報活用促進セミナー
～事例から学ぶ、GIS の活用方法～
主催: NPO 法人 全国 GIS 技術研究会
日時: 2014 年 1 月 23 日(木)
会場: 仙台サンプラザ
参加人数: 180 人(自治体:53、民間・一般:127)

写真編集・問い合わせ先／東北 GIS 技術研究会
Geographic Information System/Service
NPO 法人 全国GIS技術研究会



<http://www.npo-zgis.or.jp>